

一枚の写真

信 樂 慧



今回は、ご報告からさせていただきます。これまで私は東京の会社に勤めていたのですが、この度東京の会社の仕事を続けながら、お寺を継ぐために広島に拠点を移してきました。今後は少しずつではありますが、私がお勤めをさせていただきます。勉強中の身ではありますが、父や祖父の勉強してきたことも吸収して頑張りますので、よろしくお願いたします。

かについて、私の考えていることを少しお話ししたいと思います。
現在、私が勤めている東京の会社は「瞑想」を実践するための音声誘導や企業への導入支援をする会社です。私は瞑想を広めていくことは仏教を広げることにおいても重要であると考えており、仏道を歩む者としてとても大切な仕事だと考えております。
日本では、仏教徒は減少の一途をたどっており、今後仏教を衰退させず広げていくために大切なことは「仏教と関わる機会と利益」であると思っています。思えば昔、「子ども会」を父（住職）が毎月安楽寺で行っていました。当時私は何も考えずにお菓子がもらえるから参加していました。これも子ども達に仏教を伝えるための一つのきっかけであり、伝え方なのだと思います。
まずは、お寺とご縁を持つきっかけが大切であり、近年では、お寺で音楽の演奏会や写経体験など様々なイベントが開催されるよう



今回は、瞑想にゆかりのある臨済宗の「鎌倉明月院の本堂 丸窓」の写真とともに、宗教問わず現在世界で広がっている瞑想、そして今後仏教をどのように広めていくべきかについて、私の考えていることを少しお話ししたいと思います。
現在、私が勤めている東京の会社は「瞑想」を実践するための音声誘導や企業への導入支援をする会社です。私は瞑想を広めていくことは仏教を広げることにおいても重要であると考えており、仏道を歩む者としてとても大切な仕事だと考えております。
日本では、仏教徒は減少の一途をたどっており、今後仏教を衰退させず広げていくために大切なことは「仏教と関わる機会と利益」であると思っています。思えば昔、「子ども会」を父（住職）が毎月安楽寺で行っていました。当時私は何も考えずにお菓子がもらえるから参加していました。これも子ども達に仏教を伝えるための一つのきっかけであり、伝え方なのだと思います。
まずは、お寺とご縁を持つきっかけが大切であり、近年では、お寺で音楽の演奏会や写経体験など様々なイベントが開催されるよう

になりまし。そこで私は、様々な中でも今広く世界に受け入れられ、大きな可能性を秘めているのが「瞑想」であり仏教にとって最適なきっかけになると考えています。
瞑想は、現在GoogleやAppleなど世界の巨大企業に取り入れられ、アメリカやイギリスなど各国でコロナの外出自粛の際のメンタルケアとして推奨されるほど受け入れられてきています。キリスト教徒など他宗教の信徒が取り入れることができた瞑想は、日本の宗教と関わりのない人たちとの一つの大きな接点となりうるものなのです。
それでは、長い歴史を持つ瞑想がなぜ今ここまで広がっているのでしょうか？
私は、その理由を「瞑想による利益を、現代の人々に対して分かりやすく伝えることが出来たから」だと考えています。現代社会の人々はストレスや人間関係で疲弊しており、そんな人々のメンタルケアとして瞑想が有効であることが広がっています。このように物事が広がるためには、「利益」を上手く伝えることが大切だと考えています。
では、瞑想と仏教をつなげるためにはどうすればいいのでしょうか？

安楽寺寺報

聞 光

第103号 降誕会号

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL: 0823-21-7561

暮らしの中の仏教語 「国民（こくみん）」

意味は説明するまでもありませんが、国民とは、その国を構成する人々のことをいいます。わが国でこの語が一般化したのは『法華経』の開経とされている『無量義経』の冒頭に「国王・王子・国臣・国民・・・」とあるものから始まったものようです。

上代の文献には、この語はほとんど見られませんが、鎌倉時代頃から、例えば日蓮聖人の御遺文に「国民たり清盛」とか「義時は国民なり」などと随所にこの語が見え、また「親鸞聖人御消息集」にも「朝家の御ため、国民のために、念仏まひあはせたまひさふらはば」とあります。この辺から日常語になったものようです。

国民と言えば、かわいそうなのはウクライナ国民です。一人の為政者のために、何もかもが破壊され、帰る国がなくなりつつあります。ロシア軍には早期撤退を強く願います。

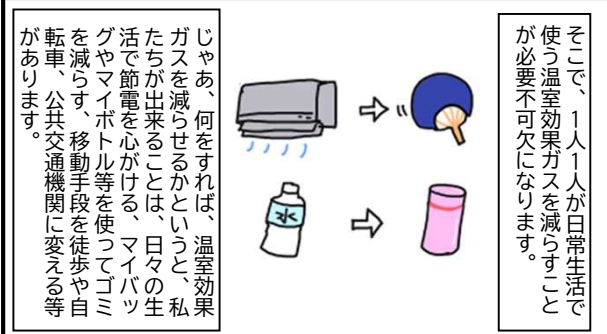
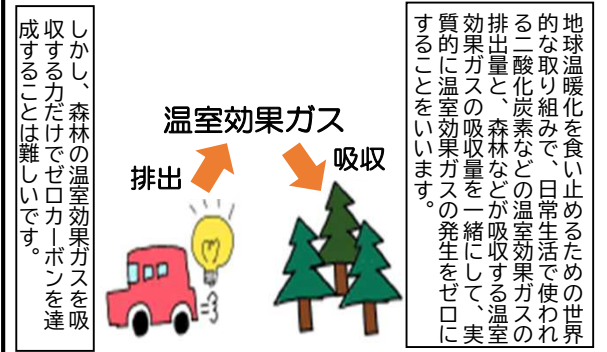


今号は1面では、日本で減少している仏教徒を増やすためにどうしていくのか、2面では大河ドラマと絡めて鎌倉時代を振り返り、4面では、マンガと暮らしの中の仏教語にて現在の情勢・環境問題に対して書いています。また、兄の二報告や父の聞光復讐など色々詰まった号になったと思います。
日々暮らしては状況は常に変わるものがあり、誰に何が起るかなど誰にも予測がつかないものです。その中でも唯一変わらないものが3面の念仏のしずくにもある通り、「仏教」といって教えなのだと教えていただいた号となりました。

めぐみ

安楽寺マンガ通信

その53 信楽めぐみ



編集後記

安楽寺法要案内

--永代経法要--

日時 6月18日(土) 昼席(13:00~15:00)
6月19日(日) 朝席(10:00~12:00)
講師 長門 浄土寺 荻 隆 宣 先生

--歓喜会合同仏参--

日時 8月13日(土) 10時~11時
8月14日(日) 10時~11時
講題 先祖を訪ねて

--彼岸会法要・聴石忌--

日時 9月23日(金・祝) 朝座・昼座
講師 佐伯 正覚寺 瀧 淵 良 孝 先生

時間 朝座10:00~・昼座13:00~
会場 安楽寺本堂
※昼食のご用意ができませんので、必要な方は各自ご用意をお願いいたします。
※新型コロナウイルスが感染拡大した場合、急遽中止する場合があります。

元々仏教とはブツダが苦しみから解放されるためにどうしたらいいのかを考え抜いてきた宗教です。いうなれば、苦から楽を求めたものですが、瞑想のようにストレスという苦しみから解放されるための行為と因縁が深いと考えます。であれば、瞑想と出会った人が、それがきっかけで行く行く仏道を歩むことになったというのはいえ話だと思えますし、それこそがご縁だと思えます。

親鸞聖人は「現生十種の益」という信心の人に現世に十種類の利益があると言われています。利益を語ることは仏教の本質であり、その時代に合わせて上手く伝えられたのだと思っています。私は今後、仏教を広めていくためには、現代に合わせた受け入れやすい「利益」を伝え、仏教とご縁を持つ「きっかけ」を作ることが大切だと考えており、様々なきっかけの中でも特に「瞑想」に可能性を感じているからこそ、今勤めている東京の会社とお寺を兼職するという決断をしました。

私はあくまで浄土真宗の僧侶として「念仏」の道歩んでいきます。その中で、自分のご縁によって仏道を歩ませていただいているからこそ、仏教と関わりがない方が「仏教とご縁」を持つことができるようなきっかけを作ることが出来たらと思っています。



「鎌倉の時」

信楽 晃仁

先日、新聞に「鎌倉時代に興味がありますか？」というアンケートが出ていました。62%の方が興味があると答えており、「なぜ？」との問いに、「初めての本格武家政権だから」という声と、「大河ドラマで放送中だから」という声が上がっていました。そして、「鎌倉時代にどんな人物を思い浮かべますか？」という問いには、一番は源頼朝、二番は北条政子、三番は源義経と出てきます。そして九位、ベトナム入りしたのが、そうです忘れてはならない。我々が親鸞聖人でした。

鎌倉時代には鎌倉仏教といい、多くの仏教宗派が成立しています。中でも私たちの浄土真宗が、この鎌倉時代に成立していますので、注目すべき時代だと思えます。ちなみに鎌倉仏教と言われるものに、六つ上げられます。法然上人の浄土宗、親鸞聖人の浄土真宗、一遍上人の時宗、日蓮聖人の日蓮宗、そして栄西禅師の臨済宗と道元禅師の曹洞宗です。いずれも現代に残る宗派です。

ではなぜ、この鎌倉時代にこれほどの宗派が生まれたかと言えば、それほど混乱した時代だったと言うことではないでしょうか。ドラマを見ていると、大変な時代であったことが、ひしひしと伝わってきます。現在人気を博す大河ドラマ、鎌倉殿の十三人ですが、皆さんはご覧になっておられますか。鎌倉幕府二代執権・北条義時(小栗旬)を主人公に、源平合戦から鎌倉時代の樹立、承久の乱までを描いたドラマです。このドラマはその親鸞聖人(誕生の承安



お念仏のしずく

ただ念仏のみぞ……



我々はどの道を選んで生きていくべきか。このことが、仏教を学ぶについての、もう一つの肝要なポイントです。いよいよ生命の最後の日がおとずれた時に、おのれの人生を振り返って、ほんとうに幸せであったかと、しみじみと思えるような確かな道を選んで歩かなければなりません。そのためには、まず人生にとってどうでもいいようなものは、すべて捨ててしまわなければなりません。そして、一つ一つ、ほんとうのもの、真実なるものを選び取らなければなりません。お釈迦様がお教えくださったのは、この人生の究極のまことの道であり、まことの道です。親鸞聖人の言葉でいけば「ただ念仏のみぞまことにしておわします」ということです。この「ただ念仏のみぞまこと」というところに立ちうるかどうか、肝要だ、仏法、浄土真宗の教を学ぶに、最大の肝要だ、ということ。いろいろな話を耳には聞いても、これでよかったんだと、最後に納得できる地点、そういうところに立たなきや意味を持たないんです。真宗はそういう道を教えているわけですが、道というものは自分で歩かなきゃならない。道の話はいくら聞いても、地図をいくら勉強しても、その道を歩いて行かなきゃ何にもならないですね。いま、私たちは、その教え、その地図をいただいているのです。あとはそのまことの道を進んでいくだけです。お釈迦様はそのことを教えられた。「ひとすじの白い道」